

# 道本部第21回定期大会 仲間を増やして前進めざそう

10月4～5日、建交労北海道本部第21回定期大会を北広島市の「北広島クラッセホテル」で開催しました。今年の大会はコロナ禍のもとでの開催のため、委任状による参加を認める措置をとり、来賓についても出席をお願いしませんでした。大会には代議員32名（出席14名+委任状18名）と道本部役員などが参加し、2020年度運動方針をはじめすべての議案を全会一致で決定しました。

大会では森国委員長が「安倍首相が病気のためと辞任したが、政権の行き詰まりから逃げたものだ。これを継承する菅内閣は、自己責任を強調し、日本学術会議の会員の任命を拒否した。たたかえば要求が前進することは、コロナ対策でも検察庁法やイージスアショアの撤回などに示されているし、ダンプの使用促進闘争やトンネルじん肺救済法など建交労のたたかいかでも明らかだ。さらに仲間を増やして前進しよう」とあいさつし、宮澤書記長が議案の提案をおこなって、2日間で延べ8人が発言しました。

## 述べ8人が各業種・分野のたたかいで発言

討論では「JR北海道で非正規職員の格差解消の要求を前進させた。関連会社で組合員がふえたことを教訓にさらに組織拡大をすすめたい」（鉄道本部）、「労働組合と政党の協力・共同で季節労働者のたたかいをひろげてきた教訓を市民と野党の共闘に生かそう」（北空知支部）、「建設現場労働者の要求にもとづいた相談で組合員を増やしている。労災職業病の分野をふくめて組織拡大をめざす」（十勝建設）、「使用促進で9月から新たに5人が新幹線トンネル工事で働くことになった。とりくみをさらに前進させたい」（札幌ダンプ）、「組織拡大では共済など新しいノウハウをふくめて議論の場が必要だ」（札幌地域）、「青年のアンケートにとりくむなど青年部の活動を強化したい。函館では建設部会の現場調査や事業団の仕事拡大もめざす」（函館）などの発言がありました。宮澤書記長は討論のまとめで「各業種の仲間の力を結集して道本部結成20年目のたたかいを前進させよう」と強調しました。

大会では新年度役員選挙がおこなわれ、森国委員長、深浦副委員長、小玉副委員長、宮澤書記長など役員全員が再選されました。

## 北海定温分会で1人が新加入

討論の中で札幌地域支部の石塚代議員は「大会前に北海定温分会から新しく1人が建交労に加入したという嬉しい報告があった」と紹介しました。

## 小雨について「1の日」行動

10月1日、小雨模様の中で「北の鉄道存続」と「すべての争議解決」を求める「1の日」行動がおこなわれました。日高線・留萌線の廃止を許さない宣伝行動のあと、争議をたたかう福祉保育労と医労連から3人が報告と支援の訴えをおこないました。